

STORY

全編・40代ライターの編集後記
いろいろと紹介しましたけど
結局、私はコレが良かった。

[ストーリー]

11 November
2018

日常もイベントも。

3枚のニットでこの秋冬を乗り切る方法教えます。

ニット×パンツだけなのに
「アガる、オシャレ大研究」



“子供乗せ
卒業派のための
電動自転車
できました!”

il mio
イルミオ



もういろんな服を
着こなさなくていいし、
着まわし上手じゃなくていいし、
家事も仕事も無理なくていい

別冊付録

私たちが
知らなかった
大草直子
BOOK

両方欲しいのが女ゴコロ
だからどちらも見せませう
あなたの今年はどう?

一蓮托生コー
vs.
流行飛びつ
コート派

秋の流行ニット
40代的にいい塩梅に
作りました!



デジタル通販マガジン

「セレSTORY」第9

即完売の商品も。ご注意ください。

少しサボると むしろ「オシャレ」で もっと「幸せ」になる!

HOLIDAY



休日は書道の稽古に励みます

書道は師範取得。ヨガもインストラクター資格を持ちサークルで指導もしています。「心の余白は大事な人たちのために使いたいです」。

WORK



小杉恵美子さん

ロンシャン
マーケティング&コミュニケーション部
シニアアドバイザー(45歳)

長年のPR経験を活かし活動開始。「老舗ブランドのロンシャンが、新しい世の中の動きを取り入れて、採用してくれたことに感謝です」。

Comment

自分の中の軸である
書道とヨガを大切にすると
心が安定するんです

14年間務めたジュエリーブランドを辞めたのは13年。「広告活動に従事し、ブランディングの基礎を学んだ後、12年間PRを担当。仕事は展示会やイベントなど多岐にわたり、十分な評価もいただき充実していました。39歳の時、ニューヨーク本社から表彰を受けて、やり切ったと感じ、育ててくれた学校を卒業するよう気持ちで退職しました。しばらく仕事を休み、趣味の書道とヨガに没頭。その後、いくつかのブランドで働きましたが、

45歳になり、この先の人生について真剣に考えました。「少し体が不自由になった母に孝行したいですし、大事な人と一緒に過ごす時間は確保したい。また、書道とヨガは私にとってかけがえないことを再確認しました。書道教室を開く準備を始めていたところ、ロンシャンから、PRへの復帰の話があったのです。「気持ちに率直に伝え、断られる覚悟で、週3日勤務をお願いしました。すると「思いは大切にすべき」と、受け入れてもらえて、

実際、今は「週4日勤務で残業もします。でも、いずれは週3日勤務を目指しています」。一万、オフは書道教室で、年代を超えた仲間とゆったりと過ごしたり、ヨガをしたり。「会社では、今日から、PRのスタッフがバリ、ニューヨークへと出張に出かけました。昔だったら、私も行きたがったでしょう。でも今は「留守番してるから頑張つて」と言える。自分の芯を保ち、働き方を変え、大事なことが明確になったことがとても嬉しいんです」。

Some Ideas

15

いろんな経験を積み重ねて掴んだ
そこには**オシャレと自由と**

HOLIDAY



秋冬服のショッピングに

NEXT...「家事をやめる!」とオシャレが磨かれる

WORK



高安千穂さん

ワーク・ライフバランス
コンサルタント・広報(39歳)

取材当日も、子どもが体調を崩した社員がPCで情報を共有しつつTV会議に参加。「テレワークができる会社は災害にも強いですね」。

Comment

人生の時期によって
ベストな働き方はそれぞれ。それを
認める社風が大切

高安さんは、企業がワーク・ライフバランスを実現するための手伝いをするコンサルタント。「入社から7年間は、フルタイムでバリバリ働いていました。当時、高安さんのお母さんは遠方のお祖母さんや親戚を一人で介護していました。母から「手が回らないから、病院に行つてもうえないか」といった電話がきても、私も仕事と子育てで手一杯で「急には無理」と断っていました。でも、気になって、集力が落ちてしまつたんです。それで、お母

さんを手伝うため、一度は休職。その後、職場復帰を考えましたが、フルタイム勤務は厳しい状況。「うちの会社には、週休3日制度はないんです。でも、就業規則に、週5日勤務が難しい場合は応相談と書いてある。そこで、上司に遠慮なく相談しました。高安さんが提案したのは、「勤務は週3日。担当できるコンサルタントの案件は2件程度。他には、テレワークが可能な広報のサポート業務をしたい。報酬は5分の3」という働き方です。それが認められ、職場復帰が叶いました。今ではオフの日には介護や子どもの行事だけでなく、ショッピングに行くなど自分時間にも充てています。「買物はイメージコンサルタントと一緒に進めたいことも。コーディネートも考えてもらえて便利です。以前は自分の限界まで働いていたという高安さん。「介護や育児のために辞める人が減れば、企業にとってもメリット。多くの企業で、柔軟に働ける文化が生まれると思います」。